

# 中央区 まめちしき

明日誰かに言いたくなる中央区のヒミツを、  
相模原市立博物館の学芸員に教えてもらいました。

## 1 国道16号と横浜線は「絹の道」

幕末から明治にかけて、相模原を含む八王子周辺や長野・山梨方面で生産された生糸は、八王子に集積され、相模原を通過して横浜港に運ばれていました。

ここで要路として利用されていたのが神奈川道（現・国道16号）で、昭和に入って「絹の道（シルクロード）」と名付けられました。

いまから約120年前の1908年に開通したJR横浜線が整備されたのも、生糸の海外輸出に向けた陸路を強化する目的もあったことから、こちらも「絹の道」と言えるでしょう。



民俗担当：山本学芸員



生物担当：秋山学芸員

## 2 さがみそうごうほきゅうしょう 相模総合補給廠って？

JR相模原駅北側に広がる約214haの敷地は、1938年に相模兵器製造所が開所し（2年後に陸軍造兵廠へ昇格）、戦車などの製造・修理を行うための陸軍施設として使用されていました。終戦後は連合国軍に接收され、のちに在日米陸軍の基地である相模総合補給廠となります。

ベトナム戦争終盤の1972年には西門で戦地への戦闘車両輸送に反対する「戦車闘争」が起こり、大きな注目を集めました。

近年では2014年に約17haが国へ一部返還され、2024年に共同使用区域でのスポレクパークが全面開園し、現在も一部返還地のうち道路鉄道用地2haを除く15haで新たな利用計画が進められています。

これからは、どんな歴史を紡いでいくのでしょうか。



歴史担当：眞壁学芸員

## 3 相模川が作った地形



神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM-NUC000010)



地質担当：河尻学芸員

中央区は相模川が形成した河岸段丘（階段状の地形）が特徴的です。3つの平坦な面（相模原面、田名原面、陽原面）は宅地や農地として開発され、面と面の間の帯状の崖には緑地（道保川公園など）が残っています。

## 4 ふるさとの味「酒まんじゅう」

「名物が少ない」と言われがちな相模原ですが、実は山梨東部から多摩地域にかけて分布する酒まんじゅう文化の南端に位置します。

昔は家庭で手作りし、祭礼や年中行事で配られていました。現代では中央区でも和菓子店などで販売されています。



民俗担当：山本学芸員

## 5 日本最古の住居は中央区に…！



考古担当：長澤学芸員

田名向原遺跡で発見された住居状遺構は約2万年前の旧石器時代のもので、日本最古とされています。旧石器時代の住居の痕跡が見つかるのは全国的に見ても大変貴重で、テント小屋のような簡易なつくりであったと推測されます。

## 6 天文台がある街

JAXA相模原キャンパス（宇宙科学研究所）や市立博物館には、大型の天体望遠鏡を備える天文台が設置されています。

JAXAの天文台は研究用のため公開されていませんが、市立博物館では「星空観望会」にて口径40cmの反射望遠鏡（神奈川県内で公開されている天文台の中では最大級）を使い、様々な天体を見ることができます。



天文担当：田子学芸員